

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	石井 紀子
論文担当者	主査 三輪 洋人
	副査 篠原 尚
	副査 小柴 賢洋
学位論文名	<p>Proposal of predictive model on survival in unresectable pancreatic cancer receiving systemic chemotherapy (全身化学療法が施行された切除不能膵癌患者の予後予測モデル)</p>
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>膵癌は極めて予後不良な疾患である。多くは進行した状態で発見されるため、治療として全身化学療法が選択されている。しかし、膵癌の予後予測は手術施行例については多くの報告があるものの、全身化学療法を施行した膵癌の予後予測式を報告したものは少ない。そこで申請者は、全身化学療法を施行した切除不能膵癌の予後予測モデルを一つのコホートの患者データを用いて構築し、別の独立したコホートにおいてその妥当性を検証した。</p> <p>2008年6月から2018年5月の期間で、兵庫医科大学にて初回治療として全身化学療法が施行された切除不能膵癌93人をトレーニングセット(Ts)とした。一方で2007年7月から2019年1月の期間で、宝塚市立病院にて同様の基準で抽出した切除不能膵癌75人をバリデーショナルセット(Vs)とした。使用した抗癌剤は、GEM、S-1、GEM + nab-paclitaxel、FORFILINOXなど両群ともに多岐にわたった。Tsにおいて検討項目を中央値で2群に分け、単変量および多変量解析を行った。Tsでの解析結果を元に予後予測モデルを構築し、Vsにてその妥当性を検討した。その結果、Tsにおいて臨床ステージ(IV or IV以外)、CA19-9(<math>\geq 437.5</math> or <math>&lt; 437.5</math>)が有意な因子として抽出された。臨床ステージIVを1点、IV以外を0点、CA19-9 437.5以上を1点、437.5未満を0点とし、合計点を算出しPaC-CA Scoreと定義した。この予後予測モデルにより、OSを比較した結果、PaC-CA scoreによりTsとVsともに有意に予後の層別化が得られた。</p> <p>これまでに、全身化学療法が施行された切除不能膵癌における予後予測モデルの報告は皆無である。今回、臨床ステージとCA19-9は臨床医が日常診療において汎用する指標であり、これらの因子から構成されるPaC-CA Scoreは、実臨床において使用しやすい予後予測モデルである。またステージIVの症例でもCA19-9の低値例が存在する。このようなサブグループは予後が比較的良好な患者が含まれている。今回の予後予測モデルは化学療法施行の適応判断や抗癌剤の選択に際して考慮すべき指標として意義を有しており、臨床的に極めて重要な論文であることから、学位授与に値すると判断した。</p>	